

古き良き時代のマエストロたちの生涯と演奏の魅力を
どこまでも熱く綴ったファン必携の一冊!

ONTOMO MOOK

深い愛情とこだわりを持つ執筆者陣が「名匠」たちを掘り下げてゆく「個性派」指揮者列伝

フルトヴェングラーからヴァントまで
聴き巧者が熱く語る

好評
発売中!
音楽之友社 編

黄金時代の カリスマ指揮者たち

A5判・224頁
定価1680円(本体1600円+税5%)
ISBN978-4-276-96217-0



初めに、フルトヴェングラー(1886~1954)、トスカニーニ(1867~1957)、ワルター(1876~1962)、クナッパースツブッシュ(1888~1965)、ムラヴィンスキー(1903~1988)という、ほぼ同時期に活躍した5人の大指揮者をクローズアップ。それぞれについて2人の筆者が思い入れたっぷりに、世紀の大指揮者たちを語り尽くす。

続いて、メンゲルベルク、クレンペラーから、朝比奈、ヴァントまで、名指揮者15人の生涯とその音楽、魅力、個性といったものを、実際に生演奏に接した「証言」も含め、同時代的に聴いてきた筆者たちが、熱く綴ってゆく。もちろん、各指揮者の「極めつけ」とうたわれる永遠の名盤にも言及、名匠たちの残した録音も再検証。

文字通り「指揮者の黄金時代」とも言える、20世紀中盤の大指揮者たちの「生き様」あるいは「音楽観」といったものを通して、21世紀の今の音楽界に伝えられてきているもの、あるいは失ってしまったものが、必ずや浮かび上がってくるはず。数多ある「指揮者名鑑」「指揮者列伝」とは一味違ったユニークなMOOKの登場だ。

3大特長

- ★本MOOKでは、執筆者陣に徹底的にこだわった。愛情の深さにおいて右に出る者はいない筆者たちが、思いのたけを熱く綴ってゆく。
- ★登場する巨匠のラインアップにも要注目。カラヤンは? パーンスタインは?……彼らについては他の本にお譲りして、代わりにC.クラウス、バルビローリ、マタチッチ等々、今あらためて知りたい! 聴きたい! 名匠たちをフィーチャー。
- ★D.キーン氏が巻頭言で明らかにしている通り、全編を貫くテーマは「真の名指揮者とは?」「真の名演奏とは?」。読後は、あなたの音楽の聴き方、芸術観が一変することうけあい!

内容&執筆者陣

巻頭インタビュー

「伝説の名演奏」……(Donald・キーン)

ウィルヘルム・フルトヴェングラー…(吉田秀和/諸井 誠)
アルトゥーロ・トスカニーニ…(萩原健太/浅里公三)
ブルーノ・ワルター…(粟津則雄/高橋 昭)
ハンス・クナッパースツブッシュ…(鶴我裕子/中野 雄)
エフゲニー・ムラヴィンスキー…(富永壮彦/宇野功芳)

ウィレム・メンゲルベルク…(平林直哉)
ピエール・モントゥー…(満津岡信育)
カール・シューリヒト…(福島章基)
レオポルド・ストコフスキー…(福本 健)
エルネスト・アンセルメ…(渡邊芳之)
クレメンス・クラウス…(樋口裕一)
オットー・クレンペラー…(喜多尾道冬)
シャルル・ミュンシュ…(諸石幸生)
カール・ベーム…(池内 紀)
ジョージ・セル…(中村孝義)
ユージン・オーマンディ…(俵 孝太郎)
ジョン・バルビローリ…(深水黎一郎)
ロヴロ・フォン・マタチッチ…(金子建志)
朝比奈隆…(岩野裕一)
ギュンター・ヴァント…(松本篤也)
その他のカリスマ指揮者たち

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30 音楽之友社 TEL. 03(3235)2151 FAX. 03(3235)2148(営業) http://www.ongakunotomo.co.jp/

教材コーナー 目次

098 教材執筆者プロフィール	110 わっぽん だいぼうけん
トレーニング タイム	112 新曲視唱
099 譜読み編	114 解説
115 リズム編	116 聴きとり術
119 初見編	118 解説
ムジカノーヴァ王国	120 楽譜に隠されたヒントを探せ!
タイトル周りイラスト:駿高泰子	122 今月の楽譜(もんだい付き)
100 三要素の城	
102 アナリーゼの泉	
104 リズムの森のポピュラー工房	
106 コンサートサロン	
108 解説と答え	

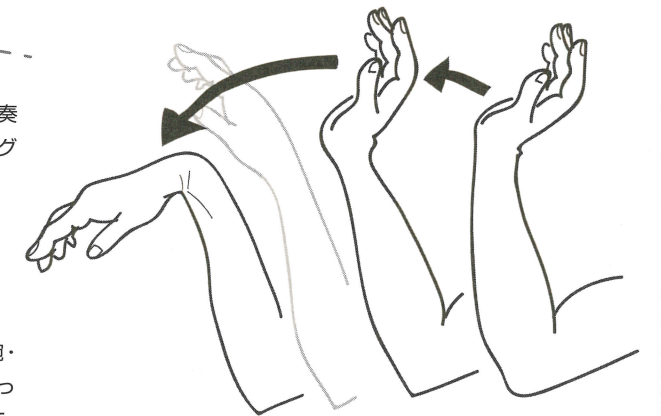
すま時間差をつけろ ⑥

脱力奏法のための トレーニング①

腕本来の重みを指先で受けとめて演奏する「脱力奏法」。その基本を身につけるためのペアのトレーニングを、今月号と来月号でひとつずつご紹介しましょう。

手首を放り投げる動きで 脱力を実感しよう

テーブルに肘をつき、肩・腕の付け根・上腕・肘・前腕・手首に余分な力を入れずに、ボールを投げるように、ゆっくりと手首を曲げます。慣れてきたら少し勢いをつけて、腕から手首が外れて遠くに飛んでいくようなイメージで手首を放り投げましょう。投げた瞬間に指もダラーンと弛緩するようにします。力が入って指が伸びていたり、つっぱってはいけません。完全に手首から先の余分な力が抜けるようにします。



ボールを投げるように、
手首を曲げる

文: 岳本恭治 (日本フンメル協会会長、国立音楽院講師)
イラスト: 駿高泰子